

★☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
♪ジョイコン NEWS♪
第60号(2023年6月)
★☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

新型コロナウイルス感染症の感染法上の位置づけが2類感染症から5類感染症へ移行となりました。しかしながら、感染が収束したとは言い難い状況でもあり、発熱や体調不良時にはご来場をお控え頂くなど、状況に応じた適切な感染対策を引き続きお願いいたします。

なお、ジョイコンのスタッフは当面の間、手指の消毒や検温を実施し、マスクを着用いたします。

それでは、「♪ジョイコン NEWS♪」(第60号)をお届け致します。

【もくじ】

-
- 【1】次回コンサートのご案内
 - ◆第63回コンサート
 - 【2】今後の予定(先取り情報)
 - ◆第64回コンサート
 - 【3】イタリアのオールド・ヴァイオリン
 - 【4】コンサートのアンケートから

【1】次回コンサートのご案内(予約受付中)

-
- ★☆☆第63回コンサート☆☆☆
 - ◇2023年7月16日(日曜日)14時開演
 - ◇出演:鈴木舞(ヴァイオリン)、實川風(ピアノ)
 - ◇プログラム(予定)
 - ◆サン=サーンス:ロマンス ハ長調 Op.48
 - ◆サン=サーンス:ヴァイオリン・ソナタ 第1番 二短調 Op.75
 - ◆サン=サーンス:序奏とロンド・カプリチオーソ イ短調 Op.28
 - ほか
 - ◇料金:大人・高校生2,000円、中学生以下1,000円
 - ◇会場:横浜市港北公会堂(東急東横線 大倉山駅より徒歩7分)

第63回ジョイフルコンサートは、『鈴木舞&實川風 デュオ・リサイタル〜デュオが描くフランスの「美しき時代」』と題して、お届けします。

鈴木舞さんからメッセージが届いています

この度は、大倉山ジョイフルコンサートに出演させていただけますこと、光栄に思っております。
高校、大学の同級生で、一緒にアルバムもレコーディングした信頼するピアニスト、實川風さんと、フレンチプログラムをお届けします。
メインとなるサン=サーンス作曲ヴァイオリン・ソナタ第1番は、繊細さと情熱を併せ持ったロマンチックな作品です。ヴァイオリン、ピアノパート共に、まるで協奏曲のような超絶技巧で、その上アンサンブルもスリリング。
實川さんとだから演奏できる華やかなプログラム、どうぞお楽しみに!(鈴木 舞)

次回のジョイフルコンサートは鈴木舞さんのヴァイオリンと實川風さんのピアノのデュオコンサートです。大変ご活躍のお2人の演奏です。どうぞお楽しみになさってください。

☆☆サン=サーンス/ヴァイオリン・ソナタ 第1番 二短調 Op.75

○サン=サーンス

サン=サーンスはフランスの作曲家、ピアニスト、オルガニスト、指揮者です。

サン=サーンス作曲の『動物の謝肉祭』の中の「白鳥」はCMなどでもよく演奏されますので、きっと皆さまおなじみの曲だと思います。
今回のプログラムで演奏予定の『序奏とロンド・カプリチオーソ』はフィギュアスケートでよく使われています。

サン=サーンスはまさに天才と言える人でした。

2歳半でピアノを弾き始め、3歳で作曲した曲が楽譜に残されています。

6歳～7歳の頃ギリシャ語とラテン語の文章を読み、10歳でピアニストとしてデビューします。18歳で初めて交響曲を書き、それが大成功しました。

20年にわたりパリのマドレーヌ寺院のオルガニストを務めました。(マドレーヌ寺院のオルガニストはオルガニストとしては最も名誉なことだそうです。)

しかも多才ぶりは音楽だけにはとどまらず、詩人、戯曲家、哲学者、ギリシャの壺絵の研究を行う考古学者の顔を持ち、そして多数の似顔絵や漫画を描いています。

ただ家庭には恵まれませんでした。

結婚し、男の子が2人生まれましたが、2人とも幼い頃亡くなってしまいます。

妻とも正式に離婚はしないまま、別居生活を続け生涯会うことはありませんでした。

その後フォーレの子供をとてまかわいがっていて、フォーレの家族ととても親しくしていたと記録が残っています。

晩年はその頃主流になっていった印象派の音楽に批判的で、古典派から抜け出すことができず、世間からは評価されることもなく、音楽に対する興味は失ってしまったそうです。

サン=サーンスは幸せな一生を送ったと思いたいですが、考えると少し複雑な気分になります。

○ヴァイオリン・ソナタ 第1番 ニ短調 Op.75

1885年に作曲されたソナタで4楽章からなり、サン=サーンスは2曲のソナタを書いています。第1番の方が良く演奏されています。

4楽章の構成ですが、前半、後半のように演奏されます。

最初はゆったりと始まり、苦難に満ちた第1主題が続き、最後は歓喜に満ちた第2主題の超絶技巧で盛り上がり、終わるといっても演奏効果が高い曲です。
それが凡庸で平凡だという声もあります。

高度な技術を必要とされていることは明白です。

実力派のお2人がどんな演奏をされるのか、どうぞご期待ください。(A.N)

■予約申し込みはこちら

ホームページ：<https://www.ohkurayama-joycon.com/>

予約専用電話：080-8424-5108

【2】今後の予定（先取り情報）

★★第64回コンサート★★

◇2023年9月17日（日曜日）14時開演

◇出演：石井希衣（フルート）、岡本知也（ピアノ）

◇プログラム（予定）

◆C.M. ヴィドール：組曲 Op.34

◆A. ジョリヴェ：ファンタジー・カプリス

◆P.O. フェルー：3つの小品

◆P. ゴーベール：2つのスケッチ

◆B. マルティヌー：スケルツォ（ディベルティメント）

ほか

◇予約受付開始：2023年7月17日（月曜日）午前9時より

★プログラム等詳細は順次、本紙面、ウェブサイト、チラシ等でお知らせします。

【3】イタリアのオールド・ヴァイオリン

ヴァイオリンの名器といえば、ストラディヴァリウス、グァルネリ、アマティなどが特に有名です。

では現代のヴァイオリンの原型を作り上げた人物は誰かという、アンドレア・アマティ（1505頃-1577）だといわれています。

アンドレアは、かつてヴァイオリン型の楽器を構想していたレオナルド・ダ・ヴィンチ（1452-1519）の流れをくむ木工職人に楽器製作を学びました。

アマティ家は地方の豪族だったとされていますが、アンドレアの代から、イタリア・クレモナに初めて工房を構えヴァイオリン製造に本格的に乗り出すこととなります。製造されたヴァイオリンの売り込み先は当時のフランス国王、シャルル9世の宮廷でした。このようにヴァイオリン製作の礎を築いたことから「ヴァイオリンの父」とも呼ばれるそうです。

アンドレアが学んだ楽器製造の技術は、アマティの一族に受け継がれ発展していきます。

息子のジロラモ・アマティ（1561-1630）、孫のニコロ・アマティ（1596-1684）、そして曾孫にあたるジロラモ・アマティ2世（1649-1740）と四世代にわたり、そこから現代に続くヴァイオリンの歴史が始まったといえるでしょう。

特に、ニコロ・アマティが活躍した1650年～1670年はアマティ工房の絶頂期でした。作られた楽器も数多く、アマティは商業的にも大成功を収めていました。

また多くの弟子たちを育てました。そのなかにアンドレア・グァルネリ（1626-1698）やアントニオ・ストラディヴァリ（1644-1737）もいたとされています。

クレモナにおけるヴァイオリン製作は空前絶後の黄金期を迎えます。弟子たちは独立して、それぞれの製作技法を競い合うこととなります。

やがて、イタリアのオールド・ヴァイオリンの多様性を彩るようになったのです。

イタリアのオールド・ヴァイオリンの魅力は、その素晴らしい音色と美しい外観だといわれています。古さだけが価値を高めている訳ではなく、ただの古い楽器とは根本的な違いがあるようです。

そのため、世界の一流演奏家が最良の楽器を求めると、その多くがイタリアのオールド・ヴァイオリンに行き着くのかもかもしれません。（でくのぼう）

【4】コンサートのアンケートから

前回のジョイフルコンサート（5月21日公演）『鈴木隆太郎ピアノ・リサイタル～パリ在住のピアニストが紡ぐショパンとリスト』は如何でしたか？

「Webアンケート」には、演奏のご感想や運営について、今後のご希望など貴重かつ熱心なコメントを頂きました。今回もその一部をご紹介します。

アンケートでの質問「今回のコンサート内容はいかがでしたか？（5段階評価）」に対し、「大変良かった」側の「5」が95%、「4」が5%という極めて高い評価でした。

自由記入欄の「演奏のご感想」では、

『プログラムも演奏も、とても素晴らしかったです。集中して聴けました♪』『ショパンとリストという、非常に人気の高い作曲家のみで構成されていて、クラシックに詳しくない人にも喜ばれるプログラムだったと思います』『初参加ですが、とっても良かったです。バラードの1番は、聞いているうちに、元々涙腺が弱いのですが、涙がでてきました😊』『ピアノ演奏は素晴らしく、アンコール曲も含め鈴木隆太郎さんの才能の多彩さと人柄が伝わってくるプログラムでした』『演奏者の曲の背景説明が、良かったです。特に、バラードの元になった詩のお話しは、興味深かったです』など演奏の素晴らしさに感動されたとのことのご感想が数多く寄せられました。

「運営について」では、
『アンコールの曲名をHPに記載いただいております。曲名が聞き取れなくて、でも、とてもよい曲だったので、曲名がわかって嬉しかったです』『次回の予約が、その場で出来るのも、良いシステムだと思う』『ポランティアベースで運営してくださって10年、本当に素晴らしい。若い演奏家の応援、感動します。運営側も、後継者が育ってほしいですね。この街の宝です』『開演前の入場列ですが、1つにして、受付の時に2手に分けていただいた方が公平感があると思います』などのコメントが寄せられました。
これからも、頂いたご意見、ご提案は引き続き検討し運営を改善してまいります。
アンケート回収数:37 (回収率 16%)

【編集後記】

新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが「5類」に移行したことに伴い、感染状況を示すデータは、これまでの「全数把握」から一部の医療機関が1週間分を報告する「定点把握」に変わりました。

直近のデータ（5月26日厚生労働省発表）によると、全国平均は3.56人で前週2.63人に対し約1.4倍に増えています。
因みに、最多は沖縄10.80（前週6.07）、石川6.38（4.90）、岩手6.32（3.11）と続き、東京3.53（2.40）、神奈川3.30（2.33）で、42都道府県で感染者が前週から増えたそうです。
4月上旬から感染拡大が続いていて、専門家は「感染拡大の増加スピードに注意が必要だ」としています。「第9波」の心配もあり、まだまだ油断ができないようです。（お）

詳しいデータはNHKサイトでも見ることができます。
<https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/data/>

※このメールマガジンは、大倉山ジョイフルコンサートのアンケート等で「コンサート情報」を希望された方に配信しております。

■ 次回予約申し込みはこちら
ホームページ：<https://www.ohkurayama-joycon.com/>
予約専用電話：080-8424-5108

■ バックナンバー
メールマガジンのバックナンバー（PDFファイル）はこちら
ホームページ：<https://www.ohkurayama-joycon.com/>

■ 配信停止／アドレス変更
メールマガジンの登録、配信停止、アドレス変更はこちら
<mailto:info@ohkurayama-joycon.com>

発行：大倉山ジョイフルコンサート実行委員会
Eメール <mailto:info@ohkurayama-joycon.com>
携帯電話 080-8424-5108
URL <https://www.ohkurayama-joycon.com/>
